

スズメの少子化、カラスのいじめ
身近な鳥の不思議な世界

安西英明



著者略歴

安西 英明(あんざい ひであき)

1956年、東京生まれ。1981年(財)日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリーに初代レンジャーとして着任後、野鳥や自然観察、環境教育などをテーマに講演、ツアー講師などで全国や世界各地を巡る。解説を担当した野鳥図鑑はこれまで30万部以上発行、NHKラジオ「季節の野鳥」は10年以上続いている。(財)日本野鳥の会普及室主任研究員、(社)日本環境教育フォーラム理事、NPO法人自然体験活動推進協議会理事、東京学芸大学非常勤講師、苫小牧観光大使。

ソフトバンク新書 012

スズメの^{しょうしか}少子化、カラスのいじめ

2006年6月26日 初版第1刷発行

著者：あんざい ひであき安西 英明

発行者：新田 光敏

発行所：ソフトバンク クリエイティブ株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-13-13

編集：03(5549)1236 営業：03(5549)1201

イラスト：加藤明子(p14, p17, p39, p42, p54, p56, p63, p66, p101, p148, p175, p189, p190)

谷口高司(p18, p32, p38, p82, p89, p103, p104, p107, p140, p142, p144, p154, p156, p157, p160, p162, p163, p164, p166, p168, p171, p172, p173, p174, p177, p179, p181, p182, p184, p186, p188, p191, p193, p195, p196)

装幀：松 昭教

組版：クニメディア株式会社

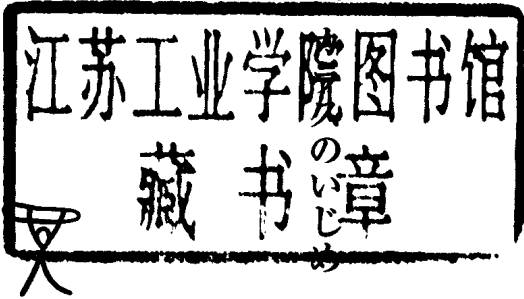
印刷・製本：図書印刷株式会社

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。定価はカバーに記載されております。本書の内容に関するご質問等は、小社第2書籍編集部まで必ず書面にてご連絡いただきますようお願いいたします。

©Hideaki Anzai 2006 Printed in Japan

ISBN4-7973-3564-5

スズメの少子化、
身近な鳥の不思議な世界



はじめに

道に迷ったらスズメを探せ……山奥や林の中で、本当にスズメがいたとしたら、それは近くに人が暮らしていることの証となる。だから、道に迷っても、スズメがいたら諦めてはならない。このようにサバイバルに役立つスズメだが、残念ながら見分けられる人は少ない。人家がなければスズメはいないので、山や林でスズメのような鳥を見たとしても、それはスズメではない可能性がある。

「スズメの平均寿命は1年とちょっと」という話をする、「かわいそう」との反応も多いが、命の原則や生き残ることの意味を、改めて認識したいと思う。「親スズメはヒナに1日300回も虫を運ぶ」と紹介すると、「家の周りにそんなに虫はいない」と言われるが、地球は虫の惑星であり、虫の増えすぎは小鳥が抑えていることを知っているいただきたい。

カラスという名前の鳥はいないし、都市で増えたとされるハシブトガラスが、アジ

ア諸国では森で暮らしていることも知られていない。見分けるのは難しいカラスたちだが、賢い鳥なので、遊びやいじめなど、興味深い行動が見られる。雌雄や親子がわかれば楽しいウォッチングができるし、彼らが注意深くマンウォッチングしていることを逆手にとつて、隠れたり脅かしたりしてからかかって遊ぶ人もいる。「怖い」という方もおられるが、人に向かつてくるのは子連れの子鳥だけ。子ガラスの時期と声を知つて、近寄らないようにすればよい。

小学3年生まで、私は昆虫少年だった。虫仲間が標本作りのために虫を殺すのが嫌で植物に関心を移すも、当時は簡単な植物図鑑がなく、元来の生物好きが野鳥に向かった。5年生の頃、日本野鳥の会・東京支部の明治神宮探鳥会に参加したのをきっかけに、各地の探鳥会へ出かけるようになり、大学時代は支部の探鳥会リーダーを務めた。卒業後はサラリーマンをしながらボランティアでリーダー役などを続けていたが、1981年(財)日本野鳥の会が、民間初の野鳥保護区「ウトナイ湖サンクチュアリ」を北海道苫小牧市に設置した際、レンジャー(指導員)として同会の職員になり、以降、

環境教育コーディネイター、ネイチャースクール所長など、普及関係の仕事を担当している。

今も、日本野鳥の会に寄せられるお問い合わせやマスコミの取材が私に回ってくる。本や図鑑も書いているし、講師もするし、テレビやラジオにも出るが、問い合わせ対応は一向に楽にならない。野鳥に関心を持つ方が多いという点ではうれしい悲鳴なのだ。私が普及したいことが世の中にはまだまだ伝わっていないようである。野鳥の会は専門家の集まりと思われるようで、野鳥について聞かれて困った会員から私にSOSが来ることも多い。私たちの会は自然保護を目的としたNGOで、その活動は会員の会費によって支えられている。つまり、野鳥や自然が好きで守りたいという方は誰でも会員になれるし、なっていたきたい。財団の職員は自然保護活動やそのための調査研究、サンクチュアリの運営、私のような普及活動を仕事としているが、会員がみな鳥に詳しいわけではないのだ。

私は立ち場、野鳥の専門家ということになっているが、専門家はどこまで知っているかを暴露しながら、野鳥を楽しむことは特殊なことではなく、誰にでも面白く、

ためにもなるということをお伝えしたい。

「知られざるを知る、これ知るなり」との格言がある。情報に溢れ、何でもわかつているような錯覚に陥りやすい時代に、けだし名言ではないか。地球に先がないことは事実であるが、「地球がだめでも宇宙があるさ」と考えている人が少なくないだろう。でも、当面は無理。今日私たちが暮らしているこの星のことさえ、よくわかっていないのに、他の星で暮らせるわけがない。何しろ、スズメやカラスについてさえ「羽いるのか?」「羽は何枚あるのか?」「どのくらい生きるのか?」「どんなオスがモテるのか?」など、わかっていないことのほうがずっと多いのだ。

スズメが見分けられるようになるといういろいろな野鳥に気づくし、子育てに必要な虫や、虫を支える植物など、自然のつながりが見えてくる。また、カラスをわかっていずれば、都市や文明、人のあり方まで考えさせられる。そこまでいなくなつて、庭でも、ちよつと散歩ついでにでも、気にかけているだけで、不思議で面白い世界が開けてくる。身の周りでも日々、さまざまなドラマが展開されていることに気がつけば、

人生を嘆いたり、環境を憂いたりする前に、命や地球のすごさを感じられるのではないだろうか。

目次

はじめに…… 3

第1章 スズメの不思議

- スズメの間違い探し 14 / 全部スズメだと思っ
ていませんか？ 17
- 子沢山で短期集中の子育て 21 / 知られざる、
名前・分類・サイズ 24
- 気配を察知する能力 26 / スズメの行動クイズ 30
- スズメに見られる集団心理 34 / 歩き方、
飛び方で鳥を見分ける 36
- 鳥のくちばしと植物の戦略 40 / どんなオス
がモテるのか？ 43
- 歌？ 警戒？ 声変り？ 47 / スズメのお宿は
どこにある？ 50
- 子育てを手伝う健気なオス 53 / 1日300
回もの虫運び 55
- 食われる側の傾向と対策 58 / スズメの学
校の先生は？ 60
- スズメで四季を知る 63 / スズメサイズの
小鳥が多い理由 67

第2章

カラスの謎

スズメの少子化 70 / 野鳥の会の知名度を上げた紅白歌合戦 72
海へ飛び出すスズメたち 74 / はじめの一步はスズメから 76

カラスを見分け、聞き分ける 82 / カラスはサルより賢い? 84
カラスの行動クイズ 88 / シヤイなカラスは襲わない? 90
人は吸えても、カラスは吸えない 93 / 何でも屋とギャングの役割 94
光る羽の謎 97 / 鳥のフンはなぜ臭くないか 99
美しいカラスたち 101 / 旅ガラスや絶滅寸前のカラスたち 105
カラスに七つも子はいない 107 / ハシブト繁栄の不思議 112
カラスで四季を知る 115 / メス・オスの見分け方 117
目を白黒させるワケ 119 / 遊ぶカラスはゴミのおかげ 121
白いカラスの悲劇 124 / カラスの行水なぜはやい? 127

第3章

ハトを楽しむ

鳥インフルエンザは怖くない 128 / ㊟カラスとの遊び方 130
闇夜のカラスにご用心 132 / ヒナを拾わないで 133

ドバーっというのはドバト 140 / ペアでいるのはキジバト 142
ハトの行動クイズ 143 / 驚異の自家製ミルク 145
羽音と翼と飛行のしくみ 147 / エサを与えるのはよいか、悪いか 149
北海道では春の知らせ、南の島には金のハト 152
ハトはポツポツと鳴くか 153 / ハトサイズを探せ 155

第4章 気づけば楽しい隣人たち

- スズメより小さければメジロ 160 / 腰を振るのはセキレイ 162
白いホッペはシジュウカラ 164 / 孤独な日陰者ならウグイス 166
カナリアの親戚カワラヒワ 168 / 絵はがき4枚分の重さしかないツバメ 170
おじぎをするのはジヨウビタキ 172 / 戸がきしむような声ならコゲラ 174
都会で会えるスター級の渡り鳥 176 / ムクドリは毎秋、異常発生? 178
ヒヨドリは都市化してやくざ化 180 / 焼き鳥の主役だったツグミ 182
地味でも人気のカルガモ 184 / 簡単カモ図鑑 186
カモの行動クイズ 188 / いろんなサギにご用心 190
ウは都会の空を雁行で飛ぶ 192 / カモメが大きくなっている? 194

あとがき…… 198

参考文献…… 204

第1章 スズメの不思議

スズメの間違い探し

イラストのスズメには、5つの間違いがある。この間違い探しクイズ、20年以上前から私の講演や講座などで試しているが、全問正解した人はほとんどいない。

間違いの中で、くちばしと尾羽の形の2つについては、比較的正解率が高い。イラストのように先が鉤型かぎに曲がっているくちばしは、獲物の肉を引き裂く猛禽類もうきんのもの。また、イラストのような二股に分かれた尾羽は燕尾服えんぴの元祖、ツバメなどに見られるものだ。

で、残り3つの間違いがわかれば、あなたは優秀ということになる。まずは、指。



スズメとどこが違う？

鳥の指は原則4本で、前向きに3本、後ろ向きに1本ある。イラストの2対2のようなタイプはキツツキなどの限られた鳥の指。キツツキは木の幹にとまるので、後ろ向きが1本多いほうが都合がよい。

残り2つはもつとも正解率が低いのだが、スズメをスズメとよく似た小鳥と見分けるのに重要なポイントだ。スズメの腹は白っぽく模様がない。つまり、イラストのように脇腹に点々があるのはスズメ以外の小鳥となる。5つ目の間違いは顔の模様で、これだけは覚えておいていただきたい。イラストには、スズメのほっぺにあるはずの黒い斑紋はんもんがない。これは、日本産約550種の野鳥の中でスズメだけの特徴である。さらに、この黒斑が薄いのが子どもであることを知れば、春から夏、そこかしこにスズメの親子がいることがわかる。スズメの子に気づく人が少ないのは、「子どもは小さい」と思っているためではないか。小鳥のヒナは羽がそろい親に近いサイズに育つてから巣立つので、野外で目にする段階では親と同じような大きさになっているのが普通である。

ちなみに、この黒斑のあたりの羽を耳羽じゆうと呼ぶ。鳥はよく鳴く。つまり聴覚に優れ